



映画雑感 16

柴生田 晴四
(経済倶楽部理事長)

▼2021年9月以降に封切られた邦画作品から。「サマーフィルムにのって」。時代劇が大好きな映画部の女子高生が、未来から来た少年を主役にチャンバラ映画を制作します。松本壮史監督の長編映画初作品。はちゃめちゃでも一途な青春の輝かしい一瞬が見事に切り取られています。

▼「先生、私の隣に座っていただいてもいいですか」では、人気女性漫画家が描く新作漫画

の世界と、アシスタントである夫と担当編集者の不倫とが複雑に絡み合います。虚実の入り混じった中で展開される心理描写を黒木華と柄本佑が好演。

▼「子供はわかってあげない」は、行方知れずだった実父に会いに行く少女のひと夏の冒険を通して思春期の少女の自立を描きます。主人公と彼女に協力する少年の淡い恋がとても好ましくとらえられていました。

▼「浜の朝日の嘘つきども」は、福島県南相馬に実在する映画館が舞台。閉館の決まった映画館を存続させるべく勝手に奔走する女性を高畑充希が生き生きと演じています。

▼「総理の夫」は妻が突然総理に就任してしまつた動物学者の夫が主人公。あたふたしながら

らも愛する妻を助けて奮闘する夫を描くコメディですが、百鬼夜行の政界で颯爽と信念を貫く女性総理の役を中谷美紀が好演。本当に総理になってもらいたいと思わせました。

▼「護られなかった者たちへ」では東日本大震災から9年後、宮城県内の都市部で全身を縛られたまま放置され餓死させられるという凄惨な連続殺人が発生します。そして事件の背後に隠された悲しい出来事が浮かびあがります。虐げられたひとたちへの偏見や暗い過去を背負った寡黙な青年を佐藤健が好演。無理解がはびこる社会に胸がふさがれます。

▼「そしてパトンは渡された」は、本屋大賞を受賞した瀬尾まいこのベストセラー小説の映画化。二人の母と四人の父を持つ女性が結婚

するまでを描きます。実母と死別した少女の前に現れた二度目の母は、なぜ次々と夫を取り換え、なぜ突然いなくなったのか。謎が明かされると同時に感動が押し寄せる瀬尾マジックが堪能できました。

▼「劇場版 きのう何たべた」。テレビ東京の深夜枠で放送された人気ドラマの映画化。西島秀俊と内野聖陽がすれ違いを乗り越えて京都旅行に出かける同性カップルを楽し気に演じます。

▼「かそけきサンカヨウ」の主人公は、幼い頃に母が家を出て、父と二人暮らしの女子高生。父が再婚し、義母とその四歳の連れ子との四人暮らしが始まります。思春期の心の揺れと周囲の温かい眼差しが繊細に描かれた好作品。